

菊川市の常夜燈



菊川市の常夜燈
菊川市教育委員会社会教育課



はじめに

静かな田園に、または街角にひっそりと佇む常夜燈。

常夜燈には「村中安全」の文字が刻まれているものもあり、

村人の暮らしを守るために建てられたことが判ります。

また、火を鎮め火災を防ぐ神社として名高い「秋葉山」などと刻まれたものもあります。

常夜燈は秋葉山に参詣する人々の旅路を照らし、道中の安全を守っていました。

それと同時に、常夜燈のある村内に火事が起きないようにとの思いが込められています。

常夜燈は江戸時代後期頃から建立され、形や材質には時代とともに多くの種類があります。

しかし、いずれの常夜燈も人々・地域の安全を願って建立され、

絶え間なく明かりを点したことでしょう。

身近な歴史文化遺産である常夜燈・・・当時の人々の“祈り”に触れてみましょう。

目次

はじめに

I 小笠高橋川エリア ... 3

-塩の道と横須賀-

II 川上エリア 5

-多種多様な常夜燈-

III 赤土エリア 7

-集落と峠道-

IV 塩の道エリア 9

-掛川との大動脈-

V 旧菊川町エリア 11

-都市と常夜燈-

探訪マップ

凡例

1 本書は、菊川市内に所在する主要な常夜燈を紹介するガイドブックです。

2 本書で取り上げる常夜燈は、以下のとおりです。

- ・地域内の安全を願って建立されたもの
- ・秋葉山信仰など火伏せの神への信仰に伴うもの
- ・道の灯りや道標として設置されたもの

3 本書で紹介した常夜燈の中には、立ち入りが制限されている場所や、信仰の対象となっており立ち入りに注意が必要な場所にたつものがあります。

見学に際しては、むやみに立ち入らないよう注意をお願いします。

また、所有者・地区の方々のご厚意により見学が可能な常夜燈では、その指示に従うなど、ご配慮をお願いします。

4 常夜燈は交通量の多い場所に設置され、多くの場合、周辺に駐車場がありません。

交通の妨げとならないよう、安全には充分ご注意ください。

5 常夜燈は、形状・内部施設・材質・年代などにより多くの種類があります。本書では、探訪に資するよう常夜燈の外観を重視し、各エリアの地図には以下のとおり示しました。



四角灯籠 宝珠・笠・火袋・竿・台石などかなるもの



社型 極度に大型化した竿上部に社殿状の灯火部をもつもの



鞘堂 常夜燈を風雨から守る構造物があるもの（内部の常夜燈の型式は不問）



その他 柱型など特殊な形態をもつもの

6 常夜燈の名称は、過去に紹介されているものであればその名称を使用しました。それ以外は、地名などを参考に新規に名称を付しました。

7 各常夜燈を紹介する項目は以下のとおりです。

① 住所

② 型式 既往の研究に則り、以下に分類しました。

・四角灯籠 宝珠・笠・火袋・竿・台石などかなるもの

・社型 極度に大型化した竿上部に社殿状の灯火部をもつもの

・柱型 細長い柱部分の上部に灯火部をもつもの

・祭壇状灯籠 鞘堂内に大型の祭壇を安置したもの

・御燈明型 鞘堂内に神棚・神符などがあるのみで燈明を灯しただけと考えられるもの

③ 銘文 常夜燈本体正面の主要なもの、および他にもある場合にはそれも記載しました。

④ 年代 建立した年月が刻銘されていれば記載しました。

⑤ 鞘堂 鞘堂の有無を記載しました。

8 本書では、「秋葉街道」や「秋葉道」と呼ばれる街道を「塩の道」と記しました。

9 本書の内容は、令和5（2023）年3月現在のものです。

10 本書は、菊川市教育委員会社会教育課が編集・作成しました。



塩の道と横須賀

名刹・正林寺周辺の塩買坂から小笠高橋川流域には、常夜燈が点々と所在しています。なかでも、県道をはさんで東側は鞘堂・西側はモルタル製社型が分布する特色があります。塩の道と横須賀街道の交流の痕跡を迎えることが出来そうです。

高橋常夜燈

茶畑にある常夜燈。初夏には鮮やかな緑の中で鞘堂が映える。

- ① 菊川市高橋
- ② 御燈明型
- ③ -
- ④ -
- ⑤ あり



正林寺は今川義忠公の菩提寺であり、供養塔が安置されています。また、周辺には塩買坂など塩の道の風情が残されています。



高橋口常夜燈

小笠高橋川沿いに集落が展開する高橋地区の入口に位置する常夜燈。

- ① 菊川市高橋
- ② 御燈明型
- ③ -
- ④ -
- ⑤ あり



小笠高橋川エリア

高橋中常夜燈

小高い丘に建立されているので、道標の機能としては最適の立地。

- ① 菊川市高橋
- ② 御燈明型
- ③ -
- ④ -
- ⑤ あり



坊之谷常夜燈

横穴に秋葉神社神符が祀られる。菊川流域の地質的特性を活用。

- ① 菊川市高橋
- ② 御燈明型
- ③ 秋葉山・講中安全
- ④ 明治十一年
- ⑤ あり



東谷常夜燈

基壇が3段と高いだけではなく、装飾性にも富んだ社型常夜燈。

- ① 菊川市河東
- ② 社型
- ③ 秋葉御神燈
- ④ 昭和十三年十月
- ⑤ -



堀之内谷常夜燈

地区の中心地に立地。高い灯火部からの明かりは地域のシンボルに。

- ① 菊川市河東
- ② 社型
- ③ 秋葉御神燈
- ④ 昭和二十四年八月
- ⑤ -



多種多様な常夜燈

川上エリアは、“市場”という地名が示すように物流・交通の拠点でした。常夜燈は北側の塩の道沿いと南側の丘陵沿いに所在し、“市場”にある常夜燈の周辺が交通の結節点になっていたことが見て取れます。

市場常夜燈

地区の基点的な箇所に所在する常夜燈。形態はやや特異な柱型。

- ① 菊川市川上
- ② 柱型
- ③ 秋葉御神燈
- ④ 大正十五年五月
- ⑤ -



川上地区より北西の棚草地区には、「今川さま」と呼ばれる祠があります。今も残る棚草用水の守り神として今川氏真と朝比奈孫十郎を祀っています。



目木山東常夜燈

神社や公民館に隣接しており、地域の人が集まりやすい場所に設置。

- ① 菊川市棚草
- ② 御燈明型
- ③ -
- ④ -
- ⑤ あり



川原常夜燈

丹野川沿いに設置された常夜燈。隣接する小さな祠の中は地域の信仰が集中。

- ① 菊川市川上
- ② 柱型
- ③ 秋葉山常夜燈・川原組
- ④ -
- ⑤ -



猿渡常夜燈

常夜燈東側の亥之宮神社前には小さな清流が流れ、心和ませる。

- ① 菊川市猿渡
- ② 御燈明型
- ③ -
- ④ -
- ⑤ あり



太田谷常夜燈

市内では珍しい灯籠が鞘堂に覆われた形態の常夜燈。

- ① 菊川市川上
- ② 四角灯籠(竿角柱)
- ③ -
- ④ -
- ⑤ あり



宮下常夜燈

昭和天皇の即位礼をはじめとする一連の儀式を記念して建立された常夜燈。

- ① 菊川市川上
- ② 柱型
- ③ 秋葉燈・奉祝御大典・宮下組
- ④ 昭和三年十月
- ⑤ -

III 赤土エリア



集落と峠道

赤土地区内には、同じような形態の常夜燈が2基1組となるよう構成された常夜燈が2セットみられます。
赤土地区南側の常夜燈は、高橋地区とを隔てる丘陵の峠道を照らしたのでしょうか？

赤土常夜燈（柱型）

柱は東側が木製（写真右）・西側がモルタル製（写真左）だが、灯火部は同形態。

- ① 菊川市赤土
- ② 柱型
- ③ -
- ④ -
- ⑤ -



虚空蔵山の節分祭は、毎年2月第1日曜日に開催され、市指定民俗文化財となっています。近接して民具などを保管する山西郷土資料館があります。



赤土常夜燈（東側）

西側にも同形態の竊堂があるが、そちらには基壇が造営される。

- ① 菊川市赤土
- ② 祭壇状灯籠
- ③ -
- ④ -
- ⑤ あり



川西常夜燈

竿上部の丸窓のデザインにモダンな雰囲気宿されている。

- ① 菊川市川上
- ② 社型
- ③ 秋葉山神社
- ④ 昭和五年五月
- ⑤ -



五町常夜燈

高橋・川上地区の境界にひっそりと佇む常夜燈。

- ① 菊川市高橋
- ② 御燈明型（社型灯火部）
- ③ -
- ④ -
- ⑤ あり



池ヶ谷常夜燈

小高い丘の階段を上ると麓の集落を見守るかのよう存在。

- ① 菊川市高橋
- ② 御燈明型（木製灯火部）
- ③ -
- ④ -
- ⑤ あり

虚空蔵山常夜燈

旧小笠町域では比較的古い定形化した四角灯籠。

- ① 菊川市高橋
- ② 四角灯籠
- ③ 秋葉山
- ④ 明治四年
- ⑤ -



IV 塩の道エリア

掛川との大動脈

内田地区周辺には、現在でも塩の道の面影が残っています。菊川の渡河地点や由緒ある寺院・応声教院などが位置するこのエリアは、人・物・情報で盛況していた往時を物語るように常夜燈が点在しています。

池村常夜燈

江戸時代後期の常夜燈と近代以降の建造物の融合。

- ① 菊川市上平川
- ② 四角灯籠（竿角柱）
- ③ 村中安全
- ④ 文政十二年正月
- ⑤ 近代以降の建造物転用



市指定民俗文化財「段平尾のさんげさんげ」は、毎年7月第2土曜日に開催されます。応声教院の山門は、国重要文化財です。



下高田常夜燈

常夜燈北側の高田橋からは富士山がきれいに見えます。

- ① 菊川市下内田
- ② 四角灯籠（竿角柱）
- ③ 秋葉山常夜燈・下高田組中
- ④ 昭和七年三月
- ⑤ -



高田常夜燈

塩の道に隣接する古川神社入口の鳥居前に所在。

- ① 菊川市下内田
- ② 四角灯籠
- ③ 秋葉山・常夜燈・村中安全
- ④ 明治三十年十二月
- ⑤ -



月岡常夜燈

山麓にひろがる月岡集落を照らす常夜燈。

- ① 菊川市月岡
- ② 四角灯籠
- ③ 秋葉山
- ④ 大正十四年十月
- ⑤ -



段平尾常夜燈

市指定民俗文化財「段平尾のさんげさんげ」は、この常夜燈から採火して執り行われる。

- ① 菊川市下内田
- ② 御燈明型
- ③ -
- ④ -
- ⑤ あり

広畑常夜燈

屋根などの重厚な造作には、中遠地域の影響を確認できる。

- ① 菊川市中内田
- ② 御燈明型（木製灯火部）
- ③ -
- ④ -
- ⑤ あり



塩の道エリア



都市と常夜燈

旧菊川町域内の常夜燈は、密集するエリアは無いものの各地区に確認することが出来ます。このことは、周辺が都市化されても地区の先人たちが常夜燈を守り続け、後世へ大切に引き継いできたことの証でもあります。

島天神社常夜燈

文化十二（1815）年建立の市内最古の常夜燈。

- ① 菊川市半済
- ② 四角灯籠
- ③ 秋葉山・常夜燈
- ④ 文化十二年九月
- ⑤ -



潮海寺八坂神社祇園祭は3年に1度、7月下旬頃に3日間行われます。市指定民俗文化財の「潮海寺祇園お囃子」に合わせて、仁王門前の石段を下り上りする光景は必見です。



和田大井神社常夜燈

輪堂内部が大型灯火部で占められる常夜燈。

- ① 菊川市和田
- ② 御燈明型（木製灯火部）
- ③ -
- ④ -
- ⑤ あり



沢田常夜燈

掛川・伊達方へと向かう街道の要衝に位置する。

- ① 菊川市西方
- ② 四角灯籠
- ③ 秋葉山・常夜燈
- ④ 明治四十三年十月
- ⑤ -



潮海寺常夜燈

市指定文化財の潮海寺仁王門に隣接し、高台から地域に寄り添う。

- ① 菊川市潮海寺
- ② 四角灯籠
- ③ 秋葉山・常夜燈・郵中安全
- ④ （判読不能）
- ⑤ -



本所常夜燈

周辺は宅地化が進むも、歴史を見守る存在であり続ける。

- ① 菊川市本所
- ② 四角灯籠
- ③ 秋葉山
- ④ 明治四十二年二月
- ⑤ -



田ヶ谷常夜燈

掛川方面との出入口に位置し、JR東海道線も近くを通過。

- ① 菊川市西方
- ② 四角灯籠
- ③ 秋葉山・常夜燈
- ④ 昭和十一年三月
- ⑤ -



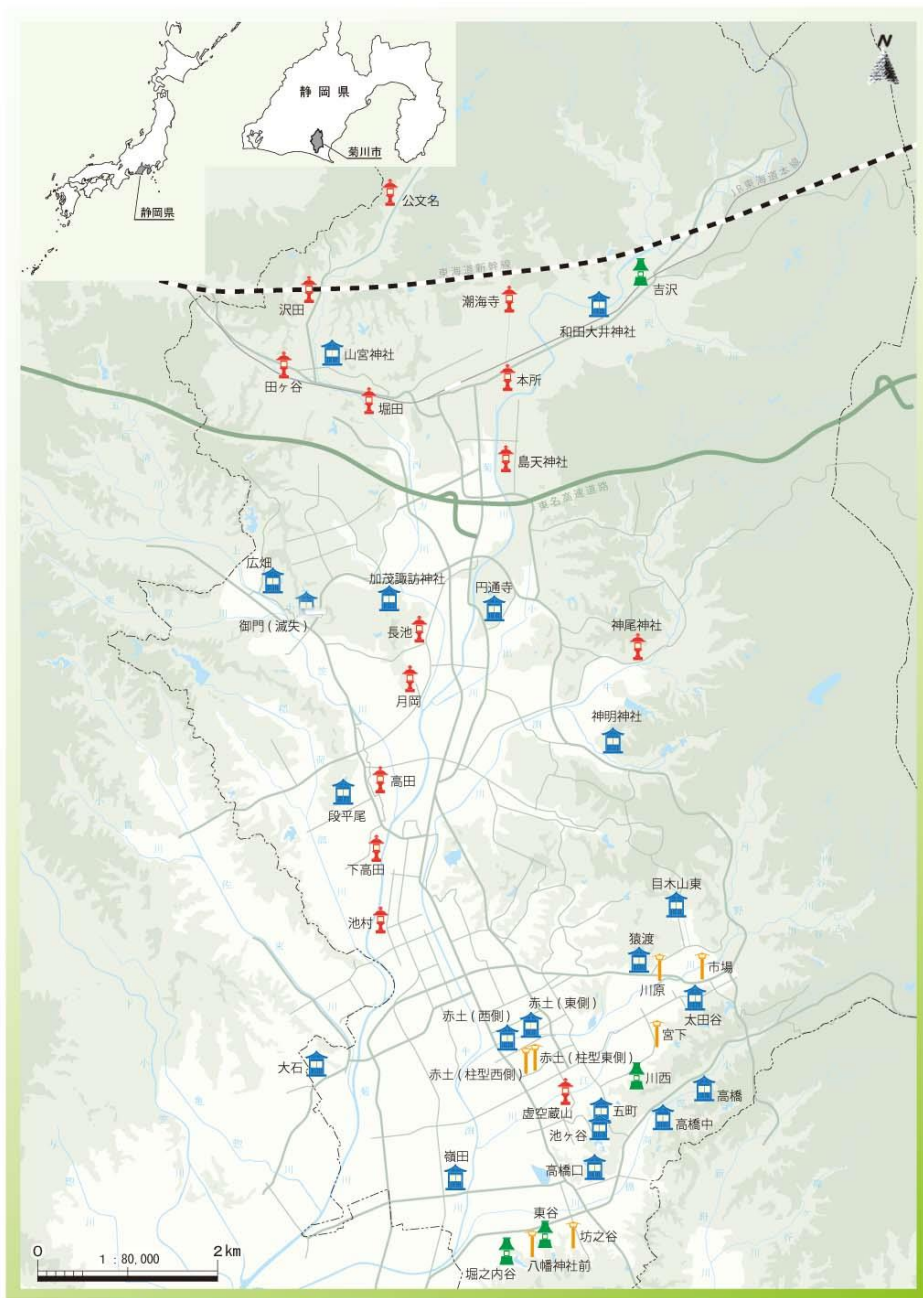
円通寺常夜燈

現在も人と街道を優しく照らし続ける。

- ① 菊川市加茂
- ② 祭壇状灯籠
- ③ -
- ④ -
- ⑤ あり



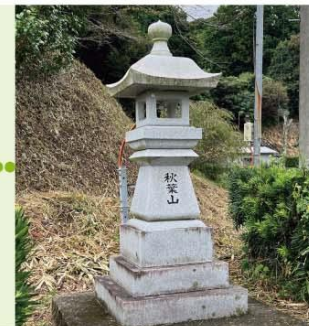
探訪マップ



公文名常夜燈

美しい里山の風景と調和する
常夜燈。

- ① 菊川市西方
- ② 四角灯籠
- ③ 秋葉山
- ④ 平成二十六年七月
- ⑤ -



吉沢常夜燈

西側に和田大井神社常夜燈があり、周辺には見所が多い。

- ① 菊川市吉沢
- ② 社型
- ③ 秋葉山常夜燈
・吉沢区民一同
- ④ 昭和三十八年
- ⑤ -



嶺田常夜燈

屋根瓦や窓のデザインが秀逸な
竈堂。

- ① 菊川市嶺田
- ② 御燈明型
- ③ -
- ④ -
- ⑤ あり



神尾神社常夜燈

南側に街道と牛瀬川が流れる
小高い丘に立地。

- ① 菊川市神尾
- ② 四角灯籠
- ③ 秋葉山・常夜燈
- ④ 昭和二十二年三月三十日
- ⑤ -

【参考文献】

竹内直文2016『秋葉灯籠の型式と編年』『静岡県民俗学会誌 第31
・32合併号』静岡県民俗学会
竹内直文2021『「秋葉山常夜灯」の諸問題』『地域と考古学Ⅱ』
向坂鋼二先生米寿記念論集刊行会
小笠町教育委員会・小笠町郷土研究会1997『秋葉街道』
袋井市教育委員会2016『秋葉山常夜燈-袋井の景観遺産探訪Ⅰ-』

菊川市の常夜燈

菊川市教育委員会社会教育課
〒437-1514
静岡県菊川市下平川618-1
TEL 0537-73-1137
FAX 0537-73-1138
令和5年3月発行

